

令和元年度 第1号

湖畔

北海道立大沼学園

〒 041 - 1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼 8 番地

TEL 0138 - 67 - 2014

FAX 0138 - 67 - 2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

令和元年 大沼学園運営体制の変更

園長 三浦 辰也

2016年に道は「道立児童自立支援施設のあり方検討会議」を設置しました。その最終報告書に基づき、年号が「平成」から「令和」となったこの年、北海道立大沼学園は小舎夫婦制から交替寮を含む運営体制へと変更を行いました。感化院時代からの児童支援理念を継承しつつ、今後は「発達障がいや虐待等によって苦しんでいる児童」への「児童自立支援施設」として、体制構築を目指すこととなります。児童福祉施設最低基準の「設備の基準」に基づき児童定員を減じ、48名から各寮10名定員の計40名としました。交替寮の運営は、労働基準法令遵守を徹底し、チーフ、サブチーフを配した8名によるものです。また、中卒児童支援のため「就労指導員」を新設するとともに、ワークライフバランスの観点からも特別非常勤職員2名枠を配して、労務環境の整備も行いました。今年度は園長を含め総勢28名の職員体制で臨みます。本庁、児童相談所とも協議、依頼をして年度末から5月の大型連休にかけては入所を一時中断し、当職が作成した「運営指針」の検討、周知や管理職入寮による実際の支援法などを含む現任訓練を行いました。

全国的に児童自立支援施設の入所率は非常に低く、定員と実員が乖離しています。学園はここ数年3月1日時点で48名定員中30名を超えています。一時は寮の定員に迫る勢いでした。平成30年度は全入所児童の内、約94%が被虐待経験のある児童、約68%が発達障がいを抱えた児童です。つまり、不良行為をなす、あるいは、なす恐れのある児童よりも「生活指導などを要する児童」が圧倒的な割合を示しています。この支援のための研鑽を積み重ねなければなりません。

何をしているのかわからない区域、何者も寄せ付けない強い意図を感じさせる木立、隔絶された施設。大沼学園はそうではないのです。学園は国道5号線からはっきりと望むことができます。木々の下枝を打ち払っているからです。その時代、その時代に集った職員の思いが有形となり圧倒的な迫力で迫ってきます。今、刈払機の小気味よいエンジン音が鳴り響き、陽光とともに草の匂いが園長室に舞い込んできます。就労指導員は中卒生指導と環境整

備活動、さらに地域支援を担っています。そこに、新任職員が加わります。子どもたちは、私と同じようにエンジン音を聞きながら授業を受けています。この職員らの姿は子どもにはどのように映るのだろうか。

この4月、6月と自立支援課に新たに14名の職員が加わりました。着任前に「私は、大丈夫でしょうか」「児童福祉の経験がないのですが」と電話口での相談がありました。私は、社会福祉士資格取得者や自立支援施設職員養成所出身者が必ずしも専門性があるとは思えないのです。子どもの声によく耳を傾けることができる人、自身を振り返ることができる人こそが専門性を有していると思わざるを得ません。よく話し、よく遊ぶことのできる人。そして、子どもからの信頼を勝ち取らなければ、知識、技術は「無用の長物」なのです。

6月26日から28日に全日本少年野球大会東北・北海道地区宮城大会が開催され、当園は3位という結果に終わりました。子どもたちに「試合を楽しんでこい」と励ましていたにも関わらず、試合が始まるやいなや、いつもは冷静な監督やコーチ陣は、地区内で最も騒々しいベンチスタッフに豹変してしまいました。私自身も悠然と試合経過を見つめようと固く決心していたにもかかわらず我を忘れてしまいました。2年連続の全国大会出場は逃してしまいましたが、多くの方からの応援メッセージを頂戴しました。どの文面にも、園生への激励に続き、職員への労いの言葉が続いていました。宮城大会で子ども一人一人が得たもの、それにも増して若き職員らが得たものがより大きいものを感じました。帰園後、秋に開催される大沼地区少年野球大会に向けて野球部は始動開始です。懇切丁寧に野球指導する新任職員。助言の的確さ、優しさ、励ましなどの語り口調。たった一球で羨望のまなざしを受け、心を驚掴みにしてしまう。「道の職場にこんなところがあるなんて知りませんでした。勤務中に子どもと野球ができるなんて。」口を揃えて話す彼らです。

子どもの人生にとってどれほど重たい仕事であるかを真に自覚するのはさほど時間を要さないと感じています。子どもたちが教師となって教えてくれます。

私が20代の頃、亡き父は真顔でこう言いました。

「辰也。おまえは、子どもと遊んでいて本当に給料をもらっているのか？」

こんな「いい仕事」はないのです。



新任職員の紹介（新しく大沼学園に着任された職員）

「新任職員の紹介」

自立支援課長 阿波加 忠純

4月と6月に計17名の転入職員を迎えました。主に交替寮の導入に伴うものですが、記憶と記録を辿るかぎり、これだけの新任職員を迎えるのは初めてのことです。

職・氏名	前所属
自立支援課長 阿波加 忠純（あわかただのり）	釧路児童相談所
庶務係長 渡辺 伸哉（わたなべしんや）	釧路児童相談所
児童自立支援専門員 高橋 和輝（たかはしかずき）	函館児童相談所
福祉指導員 成田 健悟（なりたけんご）	桧山振興局（社会福祉課）
専門主任 筑間 久枝（ちくまひさえ）	新採用
福祉専門員 柏谷 直美（かしわやなおみ）	新採用
福祉専門員 大谷 遼（おおたにはるか）	新採用
児童自立支援専門員 藤田 怜（ふじたれい）	新採用
福祉指導員 奥田 寛崇（おくだひろたか）	新採用
非常勤児童自立支援員 水島 彰	新採用
児童自立支援専門員 松山 一也（まつやまかずや）	函館児童相談所
福祉指導員 蠣崎 玲央（かきざきれお）	胆振総合振興局（社会福祉課）
福祉指導員 平田 俊一（ひらたとしかず）	オホーツク総合振興局（社会福祉課）
福祉指導員 伊藤 凌（いとうりょう）	渡島総合振興局（課税課）
福祉指導員 高間 拓希（たかまひろき）	十勝総合振興局（保健行政室）
福祉指導員 中山 雄太（なかやまゆうた）	十勝総合振興局（社会福祉課）
福祉指導員 木村 正和（きむらまさかず）	渡島総合振興局（八雲地域保健室）

「ご挨拶」

庶務係長 渡辺 伸哉

このたび釧路児童相談所から人事異動で参りました、渡辺伸哉と申します。児童福祉に関わる仕事はこちらで2箇所目となります。児童相談所での日々を振り返ると、毎日鳴り響く通報や相談の電話や突然の来訪者、予想外の出来事の連続になんとも落ち着かない毎日だったのを思い出します。自分が出会うのは保護者や関係機関等の大人が多く、児童福祉の職場とはいえ子どもそのものとの関わりは意外に少なかったように思います。大沼学園では職員が子どもと長く接し、生活や活動を共にすることで時間をかけて関係を築いていると思います。それは子どもとじっくりと向き合える職場である反面、向き合う職員としては、対人技術だけでなく自身の信条、自分の生まれ育った環境を含めた人間性も問われるような、気苦勞の多い仕事なのかなと想像します。朝会で繰り返される、思い通りにいかない子どもたちへの対応を聞きながら、子ども相手というか対人の仕事の難しさ、先生たちの苦勞を思います。庶務係長としては、働きやすい環境を整え職員の皆さんの負担を減らせるよう努めて参ります。正直、与えられた仕事も満足にこなせていない現状なのですが……。微力ながら力を尽くしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

「大沼学園での新しい仕事について」

児童自立支援専門員 高橋 和輝

本年度より大沼学園で勤務させていただきます。児童自立支援専門員の高橋です。以前は児童相談所の相談員として勤務しておりました。同じ児童福祉の分野でも、措置後の子どもたちの支援に携わる立場で今回働くことになりました。

私は大沼学園の配属を前々から聞かされており、勤務経験のある先輩方から、少しでも体力をつけてから勤務に臨むように言われておりました。そのため、少しでも体力をつけようと休日はジムに通いました。しかし、実際に勤務をすると普段やりなれていない野球、サッカー、バスケ、散策、サイクリングなどで、日々使われていなかった体のいたるところが悲鳴を上げてしまい、体力面での大変さを痛感させられました。

児童相談所に勤務していた時は、一時保護所内で子どもたちに勉強を教えたり掃除を一緒にやったり運動をする機会があったので、接し方については多少の心得があると自負していました。しかし大沼学園の子どもたちは職員の言動一つ一つを敏感に捉えているため、指示が曖昧だったり不正確だったりすると混乱してしまったり、不適応を起こしてしまいます。子どもたちは職員のおぼつかない様子や自信のない様子を見逃しません。そのため、どのように子どもたちに関わっていけばいいか日々悩みながら指導しています。子どもたちとともに個々の課題に向き合い、社会に出たときに大沼での生活を思いだし、学んだことを役立てて生きていけるよう尽力して参りますのでよろしくお願ひします。

「新たな職場」

福祉指導員 成田 健悟

本年度より大沼学園にて勤務させていただいています。成田健悟です。昨年度までは檜山振興局社会福祉課で生活保護のケースワーカーとして勤務していました。今まで室内での事務作業が主な仕事内容だったのが、大沼学園に来てからは一変。子どもたちと外で活動することが多くなりました。

大沼学園ではクラブ活動として野球に力を入れています。私は高校まで野球部に所属しており、子どもたちと一緒に毎日好きな野球が出来ることに喜びを感じています。

今後は子どもたちとともに大沼学園で様々な活動をしていき、子どもの成長を助長するような存在になれるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

「大沼学園に着任して」

福祉専門員 柏谷 直美

私はこの4月に北海道職員として採用となり、大沼学園に勤務することになりました。

これまで10年以上デスクワーク中心の業務に携わっており、また4年前に地元北海道に戻って来たら10Kg以上太ってしまい、子どもたちと一緒に過ごすための体力作りに苦戦し、身体のあちこちが悲鳴をあげている今日この頃です。

この身体の悲鳴が聞こえなくなったころには、私も大沼学園での勤務に慣れることができるのではないかと考えています。まずは自分の課題解決に十分取り組みつつ、子どもたちの課題解決に役に立てるように早く仕事のペースをつかんでいきたいです。どうぞよろしくお願ひいたします。

「のびしろ」

福祉指導員 奥田 寛崇

奥田寛崇です。今年3月までは、大学で学びながら児童相談所にて一時保護指導員をしておりました。4月にこの大沼学園に着任して以来、寮での児童との関わりやクラブ活動の野球（私自身はとても下手）、芝刈り・草刈りなど、これまでに経験のない業務に苦戦しつつも、驚きに満ちた楽しい毎日を送っております。

こうして子どもたちと一緒に生活していると、彼らは様々な場面で「のびしろ」を見せてくれます。そんな彼らを見ていると、自然と私自身にも目が向くのです。今は空を切るバット（私は壊滅的に野球が下手なのです）が、いずれ快音を鳴らす様を想像すると小躍りしたくなります。大沼学園では、援助者である私も「のびしろ」を見つけられるのです。

子どもたちの「のびしろ」を見つけ育み、自分の「のびしろ」も伸ばしたい。とても欲張りな目標ですが、達成できるように最大限努力する所存です。どうかよろしくお願ひいたします。

「よろしくお願ひします」

福祉指導員 藤田 怜

今年度より北海道職員となり、大沼学園に着任いたしました、藤田怜と申します。私は他の先生方とは異なり、新卒の新任であり職業経験のない真正正銘の新人職員です。日々慣れない業務にあたふたしていますが、新人らしく何事にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

大沼学園は私が想像していた公務員のイメージを180度変える職場です。子どもと生活し、午後は野球をして、天気の良い日には山菜を採りに行く。全く想像もしていなかった環境ですが、アウトドア派の自分にとっては楽しい職場です。一日も早く環境や業務に慣れ、一人前の北海道職員として役に立てるよう取り組んで参ります。どうぞよろしくお願ひします。

「松山一也と申します」

児童自立支援専門員 松山 一也

松山一也と申します。以前は児童相談所で勤務しており、この6月より大沼学園にて勤務させていただくことになりました。

着任してまだ日は浅いですが、子どもたちと一緒に生活を送っていると、自分自身の言動や態度を見直さなければいけないと強く感じます。子どもたちがこの人の行動をお手本にしたい、こういう人になりたいと思ってもらえるよう、日々自分の行動を見直しながら、子どもと生活していかなければいけないと気を引き締めて業務に取り組みたいです。

また、子どもたちには、大沼学園で自分のよい理解者に出会えたと感じ、暖かい気持ちで生活を送ってもらいたいです。日々生活を共にする中で、子どもたちの些細な言動に目を向け、子どもたちが何を考え、何を伝えたいのかを敏感にキャッチしていかなければならないと思っています。

この業務は、子どもたちの今後の人生を大きく左右する、とても責任のあるものだと思います。子どもの成長のために何が出来るのかを日々考えると同時に、自分自身も子どもたちに負けないくらい成長出来るよう努めていきます。どうぞよろしくお願ひします。

「福祉とは」

福祉指導員 平田 俊一

今年度6月より大沼学園で勤務させていただいております。福祉指導員の平田俊一（ひらたとしかず）と申します。今年5月までは網走市にありますオホーツク総合振興局社会福祉課で子ども子育て支援に係る業務を担当させていただいておりました。今まで経験したことやノウハウを、この大沼学園で子どもたちに、職員の方々、職場環境へ活かすことができたかなと思っています。

さて、皆さん「福祉」という言葉をご存じでしょうか。

福祉とは"公的扶助による幸福"、つまり、児童福祉とは「子どもの幸せ」を考える仕事のことを指しています。「子どもたちにとっての幸せとは何なのか。何を伝えようとしているのか。何に困っているのか。」私たちは常にそれを探求し、解決・指導していかなければなりません。厳しい環境下で生活をしている子どもたちに「幸せ」を少しでも感じさせてあげるのが私たち職員だと思います。

きっと、その子どもに伝えたその「幸せ」は周りの子たちにも広がるはずで。

時には厳しい言葉で叱らなければならない場面もあるとは思いますが、どんな場面においてもその子どもに対する愛を忘れずに、仕事に取り組むことができるよう精一杯取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

「大沼学園の指導員として」

福祉指導員 伊藤 凌

今年度6月より大沼学園に着任いたしました、福祉指導員の伊藤凌と申します。今年4月から新規採用職員として渡島総合振興局に配属となり、税務を担当していました。大沼学園での勤務は5月までの業務とは異なりますが、少しでも早く環境に慣れるよう精進します。

大沼学園でこれから業務を行う心構えとして、子どもたちと一緒に自分も成長する気持ちで取り組むつもりです。今までの環境や業務内容とは全く異なる職場では、慣れるまで時間がかかったり、失敗することが多いと思います。そこで自分で考え、自分から行動できるように改めて自分を戒めていく所存です。

子どもたちとの関わりを通して、自分が伝えるだけの一方的な指導ではなく、お互いに学び、吸収し、成長し合えるよう全力で取り組みます。これからよろしくお願いします。

「よろしくお願いします。」

福祉指導員 高間 拓希

この度、大沼学園に着任した高間拓希です。今年から北海道職員となり縁あって6月から着任しましたが、毎日が驚きの連続です。そんな中でも、持ち前の明るさと笑顔でがんばっていこうと思います。

子どもたちと最初に多く関わったのは、野球部のときでした。そのときのみんなは若さ故かエネルギーで、でも元気では絶対負けられないように一緒になってプレーしていきたいと考えています。

また、大学時代に学んだ教育の知識、経験を生かし、授業や部活、寮での生活等、子どもとともに自分を律しながら業務に取り組みたいと考えています。

そして、この大自然に囲まれた中でいろいろな発見をしながら人として成長できるよう努力していこうと思います。よろしくお願いします。

「よろしくお願いいたします」

福祉指導員 蠣崎 玲央

6月1日付けで大沼学園に着任しました、蠣崎玲央（かきざきれお）です。以前までは胆振総合振興局社会福祉課で介護保険施設や障害福祉サービス事業所の許認可業務や指導監査業務を行っていました。直接処遇業務を行う施設等の許認可、指導監査業務から、直接業務を行う仕事へと変わり、慣れない業務に右往左往することと思います。

福祉は、人間にとってなくてはならないサービスです。そんな大沼学園の業務に精一杯取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。

「よろしくお願いします」

福祉指導員 中山 雄太

6月1日付けで大沼学園に着任した、中山雄太です。以前は十勝総合振興局社会福祉課で生活保護業務を行っていました。直接人と関わる業務は行っていましたが、大沼学園での業務は全く違うもので驚きました。一日でも早く環境に慣れるようにがんばります。

大沼学園では、子どもたちと一緒に自分も学び、成長する気持ちでいます。今までの環境や業務とは全く異なるので、慣れるまでに時間がかかったり、失敗することが多いと思いますが、自ら考え行動し、少しでも子どもたちの手本になれるように頑張っていくつもりです。

また、子どもたちからも学び、一緒に成長していけるよう取り組んでいくので、よろしくお願いします。

「初心を大事にします」

福祉指導員 木村 正和

6月より大沼学園に配属になりました木村です。これまで3年と2ヶ月道職員として働いてきた中で2回目の異動です。これまでは長く同じ職場にいたことがないので、大沼学園には長くいたら嬉しいです。今までは事務作業がほとんどで、大沼学園の業務はとても新鮮で初心に戻ってしまいます。

また、生徒たちと過ごしていると今まで気付かなかったことや学ぶことがたくさんあり、自分自身も成長していかなければならないと思わされる毎日です。今後の意気込みとしては、生徒たちと深く関わっていき、生徒が社会で活躍できるように指導していきたいです。

「雑草」

児童自立支援員 水島 彰

本年度の5月から大沼学園で勤務しておりますが、4月までは乳業メーカーに勤務していました。酪農家を訪問し牛が食べるエサの状態の確認や酪農家の相談相手になる仕事です。牛は草食動物なので草を食ベミルクを出しますが、草といっても特別な草ではなく私たちが道端や公園でよく見かける草で、一般的には「雑草」と呼ばれる厄介ものです。私たちには厄介ものでも酪農家や牛にとっては貴重な草であり牧草と呼んでいます。「雑草」も種類がありそれぞれ名称や特徴があり、牛にとって栄養価の高いものや生命力の強いもの、成長の遅い種類など様々です。

我々も個性があって児童の性格も様々。そのなかで子どもたちにどのように伝え感じ取ってもらえるか自問自答の繰り返しですが、一緒に汗を流し泣き笑いで精一杯取り組んでいきたいと思っています。

「大沼学園に着任して」

福祉専門員 大谷 遼

今年度より北海道職員となり、大沼学園に着任しました大谷遼と申します。児童養護施設での勤務経験はあるものの、児童も職員も男性ばかりの職場に、日々戸惑いを感じながら、女性職員として自分自身が出来る事を日々模索しながら過ごしています。未熟者ではありますが、学園の先生方、分校の先生方、寮長・寮母先生にご指導頂きながら、大沼学園の自然に囲まれた素晴らしい環境の中で、子どもたちと一緒に自分自身も成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



新任教諭の紹介（新しく鈴蘭谷分校に着任された先生）

「自分にできること」

七飯町立大沼中学校 鈴蘭谷分校
教諭 古川 哲司

小学校・中学校・高等学校・公立校・私立校・女子校など、教員生活では様々な校種を経験させていただきました。そして今年度から、新たな環境のもと、仕事をさせていただいております。環境が変わると、今までの経験をどのように生かせばよいのか、いつも迷ってきました。そのなかで、「自分にできることは何か」を模索する連続でした。まだまだ慣れないことが多く、ご迷惑をおかけすることが多々あるとは思いますが、一つでも多くのことができるようになるよう精進して参りますので、よろしくお願ひいたします。



平成30年度卒業生激励会

福祉専門員 片石 健太

今年も、小学生2名、中学生10名の卒業を祝うために、激励会を開催しました。各寮毎に特徴のある出し物があり、芝蘭寮はキレイキレイのダンスを披露し、蛍雪寮は会場をほっこりさせるお笑いを、晩翠寮は心落ち着かせるハンドベル演奏と、バラエティのあるものとなりました。また、会食のメニューは地域のお店に依頼し、ボリュームも味も大満足なものになっていました。会の最後には、分校、学園全職員の合唱も行い、一体感のあるものに仕上がりました。

この激励会で卒業生には、心から祝われたこと、誰かのために真剣に物事に取り組んだこと、そしてなにより、たくさんの人への感謝の気持ちを忘れないで持ち続けて欲しいと思います。中学生10名は、全員翌日の卒業式後に順次退園していきました。これからの人生は、決して順風満帆なものではないと思います。その中で、学園で過ごした日々を、誰かに愛された記憶を、そっと思い出してもらえれば、そう思います。

げきれい会では、小学6年生や中学3年生がみんなから祝われて、かく寮の出し物、劇やダンス、ハンドベル、はくりよくのあるステージで、見ててすごく楽しかったです。ご飯をみんなで食べて、先生方の出し物もありました。嬉しかったです。みなさんとげきれい会ができてよかったです。

中1 Hくん



平成30年度卒業証書授与式

福祉専門員 佐藤 勇介

来る平成31年3月20日に卒業証書授与式が行われました。小学6年生が2名、中学3年生が10名、計12名が卒業証書を授与されました。

普段はあまり緊張感の感じられない子どももこの日ばかりは緊張の面持ちでした。特に卒業生である中3生は、これからの進路や新しい生活に対する期待と不安が入り交じった複雑な表情をしていたのがとても印象に残っています。

今回は私が大沼学園へ赴任し2度目の卒業式となりましたが、2年経つと、入園時から見ている児童も多く、その成長を実感する卒業式となりました。卒業式を終えた後の児童の顔はどこか晴れ晴れしていたように感じます。

この学園で経験したことは楽しいことばかりではなかったかと思いますが、一生懸命頑張った野球や分校での学習場面、いろいろな先生とのふれあいなど、子どもたちがある日ふと振り返ったときにいい思い出になってくれていることを望んでやみません。

それぞれに旅立っていった子どもたちを見送りながら私自身もいろいろ思い出してしまいました。そして、最後は皆笑顔で旅立ってくれたことをとてもうれしく思います。しかし、卒業した子どもたちにはこれからも様々な苦労があることかと思いますが、壁にぶち当たったときには大沼学園での生活を思い出し乗り越えていってほしい。そして、今後の子どもたちの人生に幸多いことを望みます。



各寮紹介

芝蘭寮

今年度のスタートは5名での生活です。寮内の掃除や係事については、残念ながら5名全員が取り組めていない状況です。主に4名が寮内の掃除や係事に取り組んでいます。今年度から中学生になったT君と小学5年生のS君も掃除や当番のローテーションに入っています。4名なので、当然一人が掃除場所や当番を掛け持ちしながら取り組んでいます。それでも我が儘で身勝手に拘りの強い寮長は、汚い場所で生活するのが人一倍嫌なので、寮内外は常にきれいにするように伝えており、小姑のように寮内や居室の衣類ロッカーなどはきれいに整理されているかチェックしています。そんなどうしようもない寮長の元で4名の子どもたちは非常に良く頑張ってくれています。また、食器食缶洗い当番についても、寮母が1週間マンツーマンの付きっきりで教えており、合格できて初めて取り組みます。そういう意味では細かくて厳しい寮だと子どもたちも感じていると思います。それでも子どもたちは、本当かどうかは分かりませんが、「芝蘭寮で良かった」と言ってくれます。子どもたちから嫌われても、憎まれても「安心できる場」と思ってもらえるような寮舎運営を心掛けていきたいと思っています。

今年度、どのような新生児が来てどのような雰囲気になるのか楽しみでもありますが、分校の先生方や学園の先生方に支えてもらいながら、学園最後の夫婦寮として、子どもたちにより良い生活環境を提供できるように日々努めていきたいと思っています。今年度もよろしくお願いします。

晚翠寮

4月から新生晚翠寮が8名の子どもたちとスタートしました。新晚翠寮は職員が通勤する交替寮です。職員が入れ替わりなので、子どもたちは戸惑いもあります。中3のK君は寮のルールのことをいろいろ考えてくれています。中3M君、O君は中3としての自覚をもって生活してくれています。まだまだ物足りない面もあります。8名の職員と子どもたちはどうかかわっていくことが出来るか、きっといろいろな姿を見せてくれるでしょうが、基本的なことは同じです。私たち交替寮職員は、8名で頭を悩ませながら寮の子どもたち8名を見守り、今後のために支援していけたらと思っています。

6月になり、いよいよ野球部の活動が活発になり、晚翠寮の子どもたちも時間を惜しむかのように、余暇時間は野球をやっています。動くのが好きな小5のK君は足を骨折してしまいましたが、早く良くなることを祈っています。未だスタートしたばかりの新晚翠寮ですが、職員児童みんなで作上げる良さも生かしながら職員は悪戦苦闘の毎日です。どうか応援下さい。



運動会

児童自立支援専門員 関口 聖人

今年の運動会は天候にも恵まれ無事開催することができました。テーマは「一致団結、心をついに～自分を信じ 仲間を信じ～」。例年に比べ人数は少ないですが、その分各チームの団結力は強く、大接戦になりました。結果はまさかの同点。運動会が始まってから初めてのことで、それだけ両チームとも仲間を信じて一致団結していたと言うことでしょうか。

全体競技では毎年恒例の組み体操。前日練習で体調に不安がある児童も本番では見事決めてくれました。児童たちの本番での力には毎年驚かされています。

今年はスペシャルゲストもきてくれました。前年度の退園生が野球の全国大会を記念して作ったポロシャツを着て、サプライズで訪れてくれました。彼が現在の生活を笑顔で語る姿、学園で学んだことや学園に来て良かったと語る姿、運動会に参加し在園生と一緒に楽しむ姿は職員以上に一緒に学園生活を送った在園生の心に残ったのではないかと思います。

毎年児童たちの顔ぶれは違いますが、毎年練習以上の力を出してくれる児童たちには驚かされ続けています。この力を良い方向へ持って行けるよう支援していきたいと思います。



今回、白組のキャプテンをしました。運動会練習では中々うまくいかず、すぐケンカをしていたり、とてもバタバタしていました。総練習も同じように心が一つにならず、大変でした。しかし、当日になると心が一つになり、息が合わさるようになってきました。その結果、紅組と同点でどちらとも優勝しました。きっと、当日になり「絶対勝つぞ」ということが心の中に全員あったのかなと思いました。

中3・Sくん



令和元年6月26日から28日にかけて、第70回全日本少年野球東北・北海道地区宮城大会が行われました。私が監督に就任し初めての東北・北海道大会となりました。朝は緊張の色が見られた子どもたちも、仙台への移動の車中ではお菓子を食べたり談笑したりと、少しずつ表情もほぐれていきました。

初戦は、青森県児童自立センターみらいと対戦し、21：0と快勝。初めて戦う相手、初めて試合を行う球場に心配もありましたが、そんな心配とは裏腹に一生懸命にそして楽しそうに試合に臨む児童の姿がそこにはありました。

2回戦、秋田県千秋学園との戦い。6回表まで一進一退の攻防で緊張感のある試合展開が続きましたが、6回の裏、秋田の攻撃で7点を追加され5：12でコールド負けを喫してしまいました。今振り返ると、実力にさほど差はないように思いましたが、やはり最後に疲れからか気持ちが切れてしまったことが敗因のように感じます。試合を終え、かなり悔しかったのか、普段は陽気で怒られてもどこ吹く風の子どもたちが泣き崩れ、しばらく立ち上がれなかった姿がとても印象的でした。負けてしまった子どもたちは残念ですが、ある意味では負けて得られた物も大きかったと思いますし、いい経験になったのではないかと思います。ホテルに帰った後もしばらくその様子は続いていましたが、各自、自身の反省点を見直し、徐々に翌日の3位決定戦に向け気持ちを切り替えていきました。

翌日の3位決定戦は開催県、宮城県立さわらび学園との対戦。昨日の雰囲気を引きずっていないかと心配していましたが、子どもたちは一生懸命、楽しそうに試合に取り組んでいました。結果は14：0と快勝。見事、東北・北海道3位を勝ち取りました。試合を終えた子どもたちは疲れも見られましたが、いつもの明るい表情に戻っていました。全国大会への切符は逃してしまいましたが、3位という結果は子どもたちが頑張ったからこそ得られた結果だと思います。野球を通じて成長していく子どもたちの姿が感じられました。もちろん、職員にとっても、とてもいい経験になりました。そしていい思い出になりました。子どもたちもやがてここを巣立っていきますが、この悔しい経験を糧としてこの先の壁を乗り越えていってほしいと思います。また、ある日ふと、いい思い出としてチームメイトと共に戦ったこの大会を思い出してくれることを望みます。

僕は宮城県でおこなわれた、東北・北海道大会に行ってきました。宮城県では、みんなで全国大会に行くための切符を手に入れるために、がんばって来ましたが、けっかは残念ながら3位で全国大会には行けませんでした。ただ、そこでの試合で色々な事を学びました。プレーの一つ一つを大切にしていくこと、一回の練習を大切にしていくこと。もう少し練習をしていればという時があり、一回の練習がとても大切であることをまなびました。今回学んだことを、これからの生活や練習にいかしていきたいと思います。

中3 Kくん



❁お世話になりました❁

退職

(平成31年4月1日付)

安藤 達 眞中 孝
安藤 いづみ 眞中 宙子

異動

佐藤 孝幸 向陽学院
伊藤 真介 保健福祉部子ども未来推進局 (子ども子育て支援課)
小関 逸弥 向陽学院
小関 久美子 向陽学院
西澤 幸裕 室蘭児童相談所
熊本 淳 函館児童相談所

(令和元年6月1日付)

片井 竜紀 江差高等看護学院

ご寄附食品等

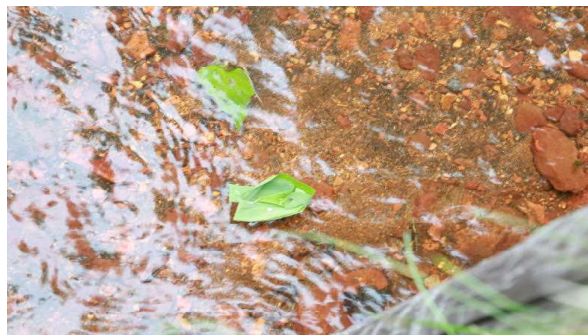
皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(平成31年3月1日～令和元年6月) *敬称略

阿部正明 (大阪府) 大成長生園 (大成町) ケルン (森町) 財津自工 (七飯町)
木村秀樹 (八雲町) 佐藤隆三 (七飯町) 澄マサノ (函館市)
北斗北更生保護女性会 (北斗市) 七飯更生保護女性会 (七飯町) 大中山保育園 (七飯町)

編集後記

交替寮開設にあたり、多くの職員がこの大沼学園に配属され、寮運営をより良くしていこうか考える日々が続いています。過去の大沼学園の職員方が紡いできた良き伝統は、決して色褪せることなく残り続けていくよう、職員一丸となって子ども達の為に出来る事は何か日々考えながら奮闘中です。令和元年度の「湖畔第一号」も、たくさんの方々に協力を得ながら無事発行する事が出来ました。今後も、「湖畔」を通し新しい大沼学園の様子、子どもたちの日頃の様子をいつも支えてくださっている関係者の皆様方、地域の皆様方、保護者の皆様方にお伝えしていけたらと思っています。今後とも、変わらぬご支援のほど、よろしくお願いたします。



学 園 の 動 向

平成31年3月～令和元年6月

- 3月3日 園外活動（芝蘭寮、温泉入浴）
- 4日 被措置児童等虐待防止研修会（講師：北星学園大学栗山隆教授）
- 5日 北海道公立高校入学試験（～6日）
- 6日 医診
- 7日 札幌市児童相談所遠藤真梨那児童福祉司、森本来見児童福祉司、山中健也児童福祉司調査のため来園
- 8日 園外活動（晩翠寮、温泉入浴）
- 10日 内科検診 二計測 避難訓練
- 11日 北斗市要対協ケース会議出席（佐藤自立支援課長、安藤専門主任）
- 12日 職員会議
- 13日 支援会議 職員研修
- 14日 理髪
- 17日 北海道公立高校合格発表（6名全員無事合格）卒業式総練習 大掃除 卒業生激励会
- 18日 卒業証書授与式
- 19日 修了式 離任式
- 20日 園長から次年度の寮運営などについて児童に説明（蛍雪寮、晩翠寮の休寮など）
- 22日 買い物訓練（芝蘭寮） 蛍雪寮の児童晩翠寮へ移動 広島大学石垣文助教寮舎改修打合せのため来園
- 25日 小川錦織設計事務所錦織真也一級建築士寮舎改修打合せのため来園
- 27日 道保健福祉部子ども子育て支援課竹内弘安主幹施設運営指導のため来園
- 28日 晩翠寮交替寮へ移行
- 29日 中央児童相談所へ児童移送（三浦園長、斉藤生活指導係長）
- 31日 真中孝福祉専門員、真中宙子福祉専門員、安藤達専門主任、安藤いづみ専門主任退職

（入所0／退所11）

- 4月3日 新任職員研修（7名、～5日）
- 8日 内科検診
- 9日 始業式 着任式 二計測 視聴力検査
- 10日 函館児童相談所飯田聖治相談支援係長、橋本玲奈相談員、横堀大元主任児童福祉司、熊本淳児童福祉司、鈴木尚正児童福祉司、上戸恵福祉専門員、皆川友里判定員着任挨拶及び見学のため来園
- 12日 運営会議
- 15日 学力テスト 授業参観日
- 17日 医診 職員会議
- 18日 全国学力調査、標準学力検査 支援会議
- 22日 東北・北海道地区児童自立支援施設協議会役員会及び施設長会議（グリーンピア大沼、～23日）
- 24日 小学生クラブ園外活動（八郎沼） 歯科検診
- 25日 尿検査（一次）
- 28日 園外活動（芝蘭寮、サイクリング）
- 29日 外出行事（グリーンピア大沼）
（入所0／退所0）



- 5月1日 外出行事（映画鑑賞）
- 2日 寮炊事（昼食、ジンギスカン）
- 3日 園外活動（芝蘭寮、鹿部町）
- 5日 外出行事（温泉入浴）
- 8日 運営会議 山浦卓函館少年鑑別支所長
着任挨拶のため来園
- 10日 眼科検診 道主任級職員研修（片石福
祉専門員、札幌市） NPO法人青少年
の自立を支える道南の会会長高橋一正氏
来園
- 12日 園外活動（晩翠寮、サイクリング）
- 14日 尿検査（二次） 運動会総練習開始
- 15日 職員会議 医診 環境整備活動
- 16日 耳鼻科検診
- 18日 函館中央警察署署員有志（13名）
野球部との練習試合のため来園
- 19日 理髪
- 20日 内科検診 心電図検査（中1）
（社団）ココロミクラフティ本間征二代
表理事、自立援助ホームホームズ秋田照
洋ホーム長見学のため来園
- 22日 支援会議
- 25日 大運動会（晴天下に終了）
- 27日 振替休校 児童自立支援施設スーパー
バイザー研修（阿波加自立支援
課長～30日、さいたま市）
(入所0/退所0)



- 6月1日 野球部対外練習試合（学
園グラウンド、対野田生中学校野球
部）
- 3日 授業参観日 岩見沢児童相談所杉
本敦子ども支援課長、池内伸明児童
福祉司児童移送のため来園
- 4日 函館児童相談所の花壇整備活動
（斉藤孝宏専門主任、片石健太福祉
専門員、奥田寛崇福祉指導員）
- 5日 全国児童自立支援施設協議会役員
会・研修会（三浦園長～7日、甲府
市） 校外活動（中1） 函館地方
裁判所司法修習生6名（田中稔裁判
事補引率）研修のため来園
- 6日 園外活動（小学生クラブ、湖畔散
策、野球部、森町営球場練習）
- 7日 遠足（きじひき高原）
- 8日 七飯男爵太鼓創作会公演（作家・
作曲家佐藤三昭氏、創作会10名）
のため来園
- 10日 七飯町民生委員児童委員協議会
（9名）学校訪問及び見学のため来園
- 12日 釧路児童相談所江渡弘幸児童福祉
司、黒川友総児童福祉司調査のため
来園
- 13日 野球部園外練習試合（森町営球場、
対職員チーム）
- 14日 札幌市児童相談所森谷耕平児童福
祉司調査のため来園
- 17日 道建設部建築保全課（3名）本館
等改築工事の事前調査のため来園
- 19日 医診 第三者委員会、山内良輔委
員、鍋谷雪子委員出席のため来園
- 20日 期末テスト（1日目） 札幌市児
童相談所大森将司児童福祉司、遠藤
真梨那児童福祉司児童移送のため来
園
- 21日 期末テスト（2日目）
- 24日 内科検診 野球部壮行会
- 25日 渡島教育局義務教育指導班斉藤誠
主査、七飯町教育委員会川野真一学
校教育指導主事学校教育指導訪問の
ため来園
- 26日 野球部（児童9名、三浦園長ほか
職員6名、分校教員1名）東北・北
海道地区少年野球大会へ出発
- 27日 東北・北海道地区少年野球大会
（仙台市、～28日）
(入所2/退所0)